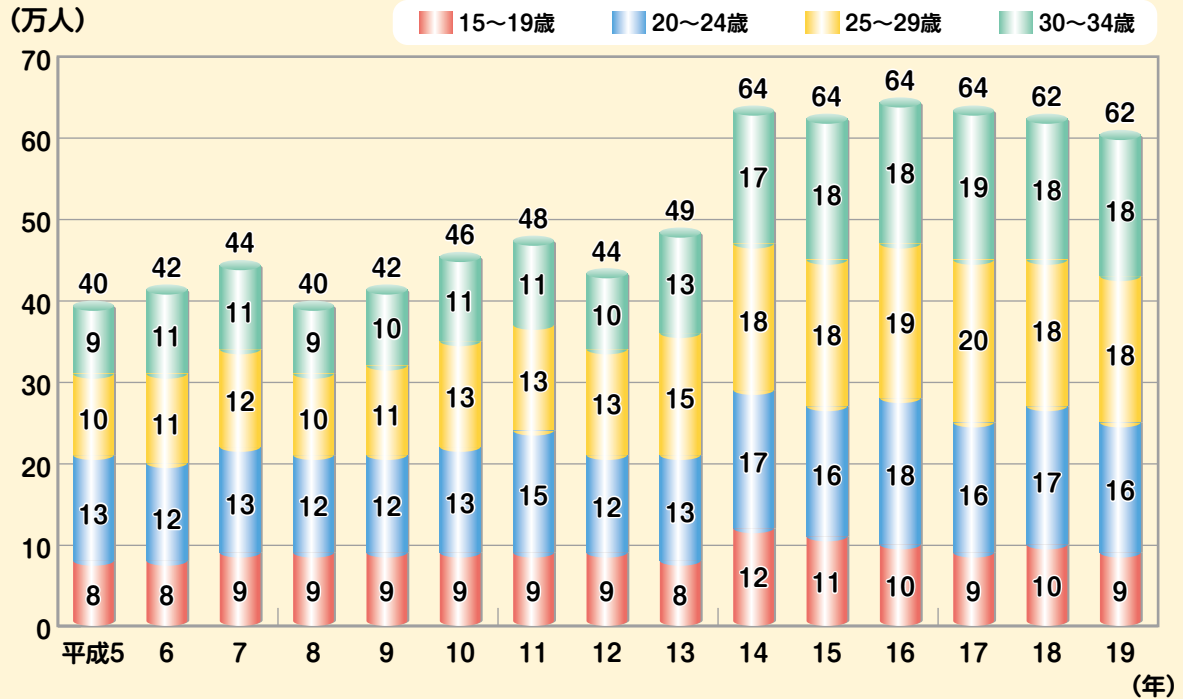


図15 若年無業者数の推移



(注) 1 若年無業者について、年齢を15~34歳に限定し、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者として集計。
 2 15歳~34歳計は、それぞれの内訳について千人単位を四捨五入しているため合計と合わない。
 総務省統計局：労働力調査

図16 ひきこもり群の推計数

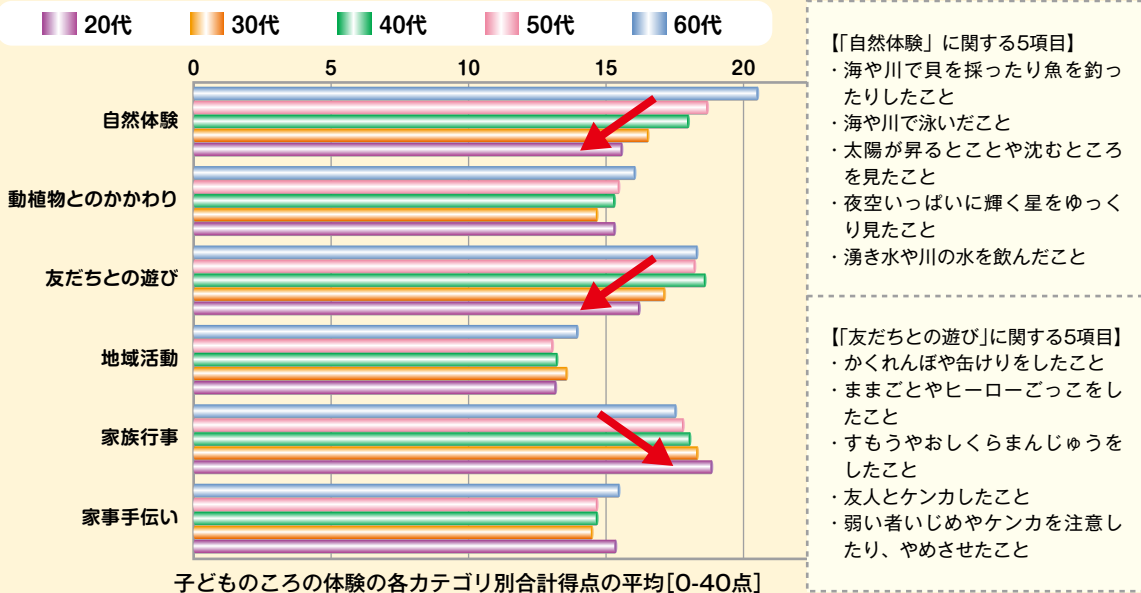
	有効回収率に占める割合 (%)	全国の推計数 (万人) (注1)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	1.19	46.0	準ひきこもり 46.0万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.40	15.3	
自室からは出るが、家からは出ない	0.09	3.5	狭義のひきこもり 23.6万人 (注2)
自室からほとんど出ない	0.12	4.7	
計	1.79	69.6	広義のひきこもり 69.6万人

ただし ア) 現在の状態となって6ヶ月以上の者のみ
 イ) 「現在の状態のきっかけ」で、「病気 (病名:)」に統合失調症又は身体的な病気、又は「その他 ()」に自宅で仕事をしていると回答した者を除く
 ウ) 「ふだん自宅にいるときによくしていること」で、「家事・育児をする」と回答した者を除く。

(注1) 総務省「人口推計」(2009年)によると、15~39歳人口は3,880万人より、有効回収率に占める割合 (%)×3,880万人=全国の推計数(万人)
 (注2) 厚生労働省の新ガイドラインにおけるひきこもりの推計値は25.5万世帯となっており、ほぼ一致する。
 内閣府：若者の意識に関する調査 (引きこもりに関する実態調査) 報告書 (平成22年)

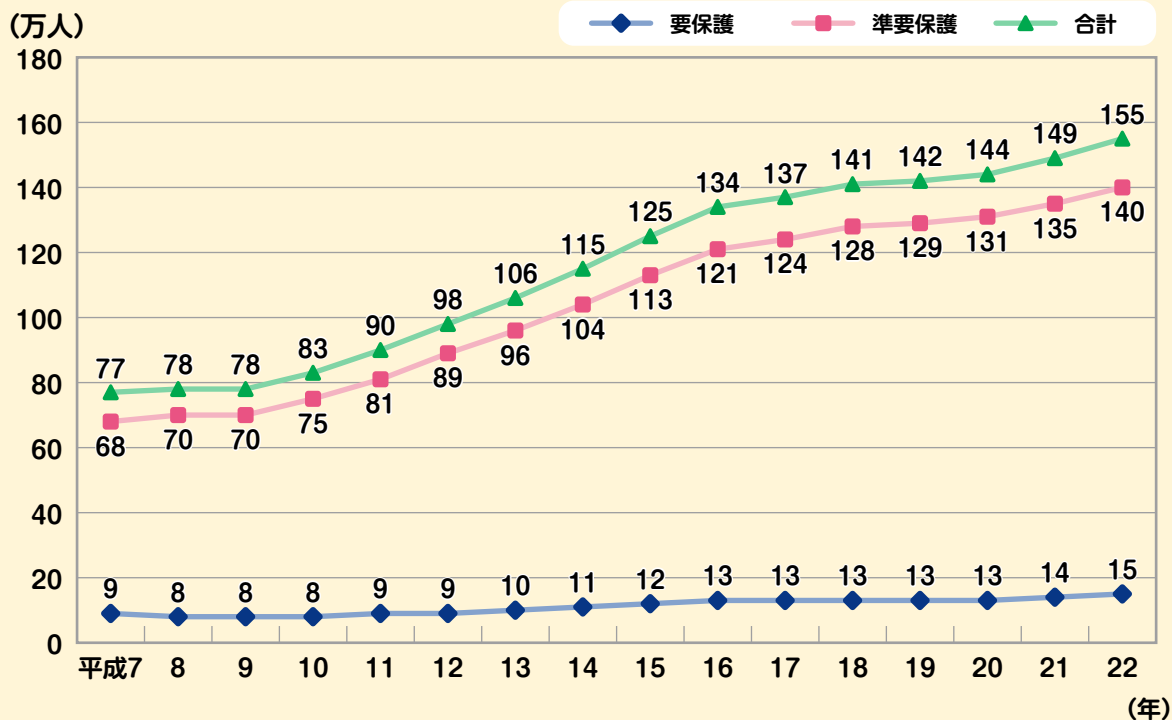
図17 子どもの頃の自然体験や友だちとの遊び体験

◇ 年代が若くなるほど、子どもの頃の自然体験や友だちとの遊びが減ってきている。【成人調査】
 「星空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」といった「自然体験」、「弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと」といった「友だちとの遊び」が若い世代ほど少ない。一方、幼少期での「家族の誕生日を祝ったこと」といった「家族行事」は若い世代ほど増えている。



独立行政法人国立青少年教育振興機構：子どもの体験活動の実態に関する調査研究（平成22年度）

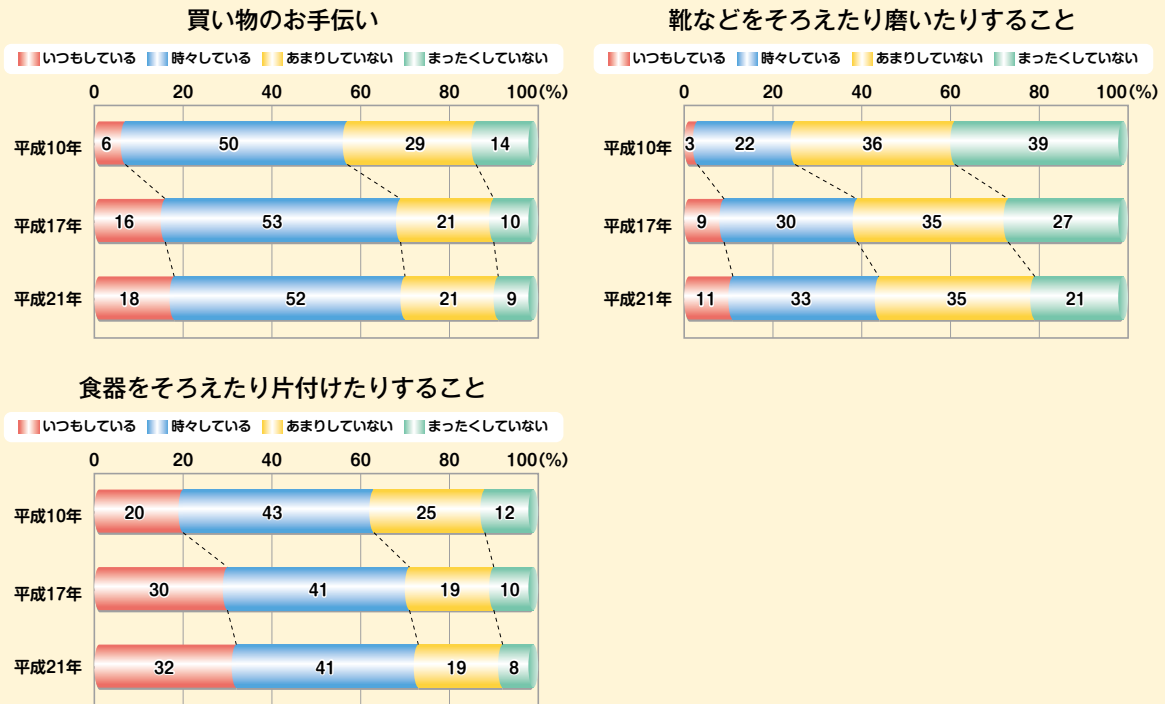
図18 要保護及び準要保護児童生徒数の推移



文部科学省：要保護及び準要保護児童生徒数について（平成22年度）

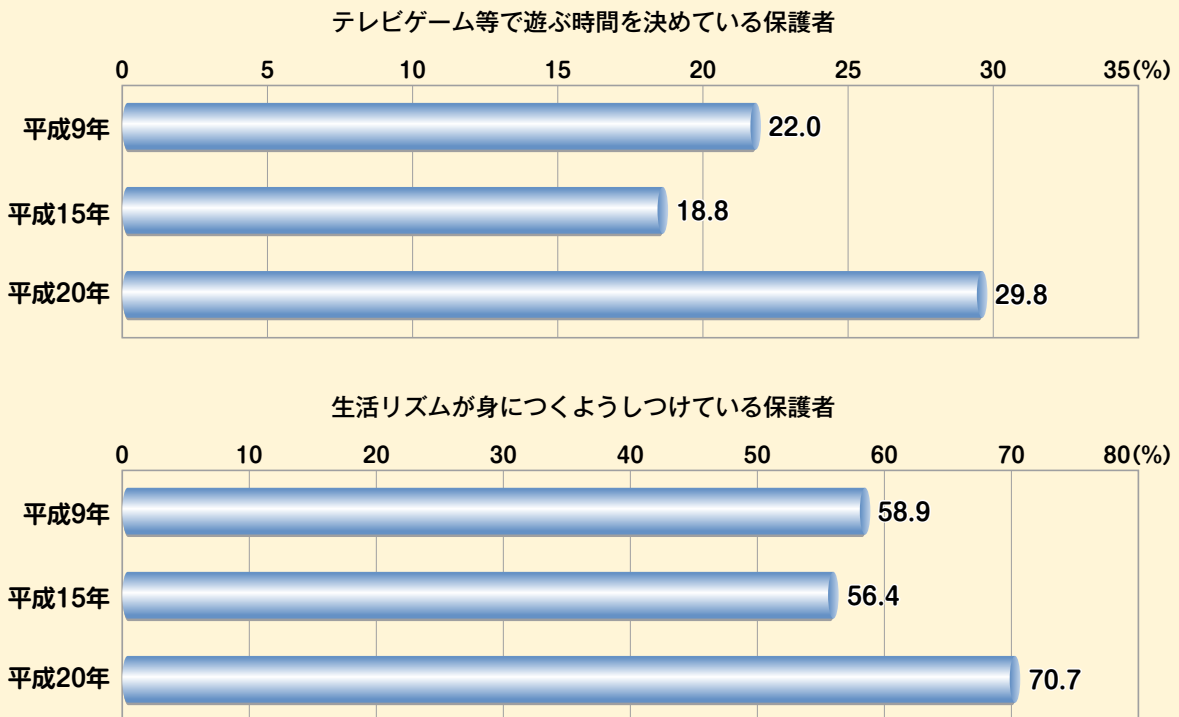
(3) 家庭教育が困難になっている社会

図19 家庭でお手伝いをする小中学生(小4、小6、中2合計)



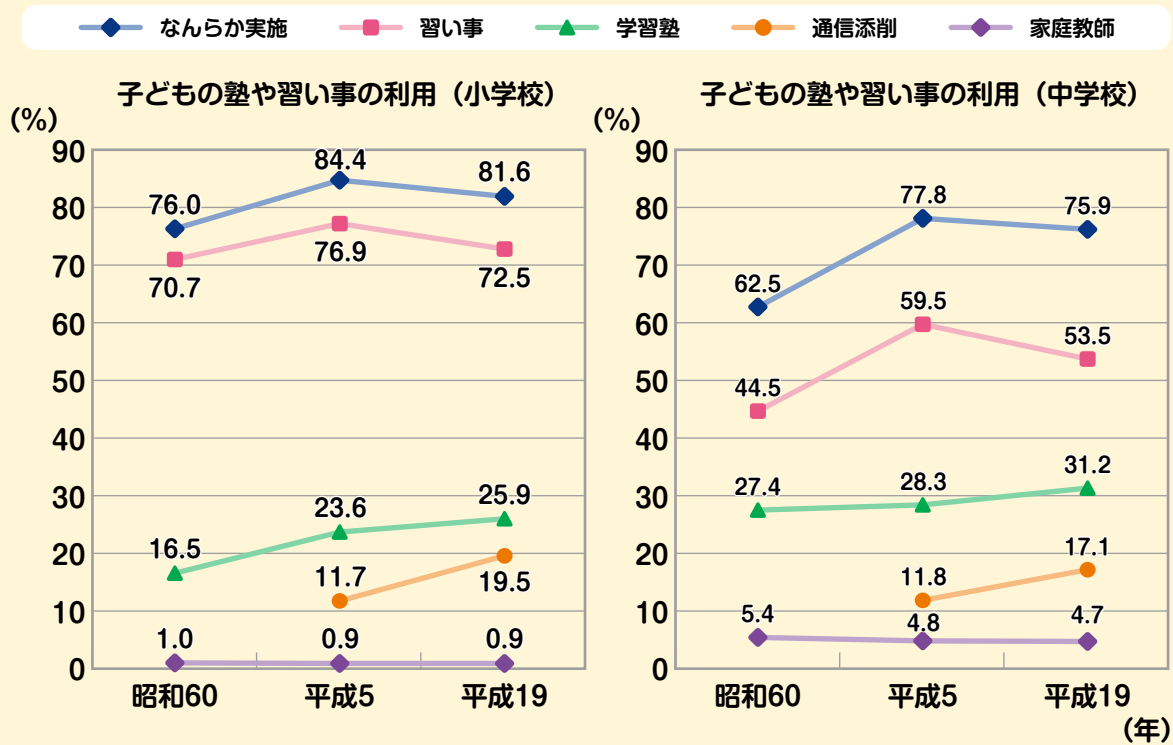
独立行政法人国立青少年教育振興機構：子どもの体験活動の実態に関する調査研究（平成22年度）

図20 保護者のしつけの増加



ベネッセ教育研究開発センター：子育て生活基本調査報告書（幼児版）平成21年度

図21 子どもの塾や習い事の利用



文部科学省：子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告

I データ集

2. 家庭教育と家庭教育支援

- (1) 教育基本法第 10 条、第 13 条 …… 46
- (2) 「発達資産」という考え方 …… 47

(1) 教育基本法第10条、第13条

○教育基本法

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

(2) 「発達資産」という考え方

「発達資産」、 「発達力」、 「教育力」 の概念整理

子どもの発達資産とは

子どもたちが発達する上で獲得することが望ましい事柄

【発達資産】

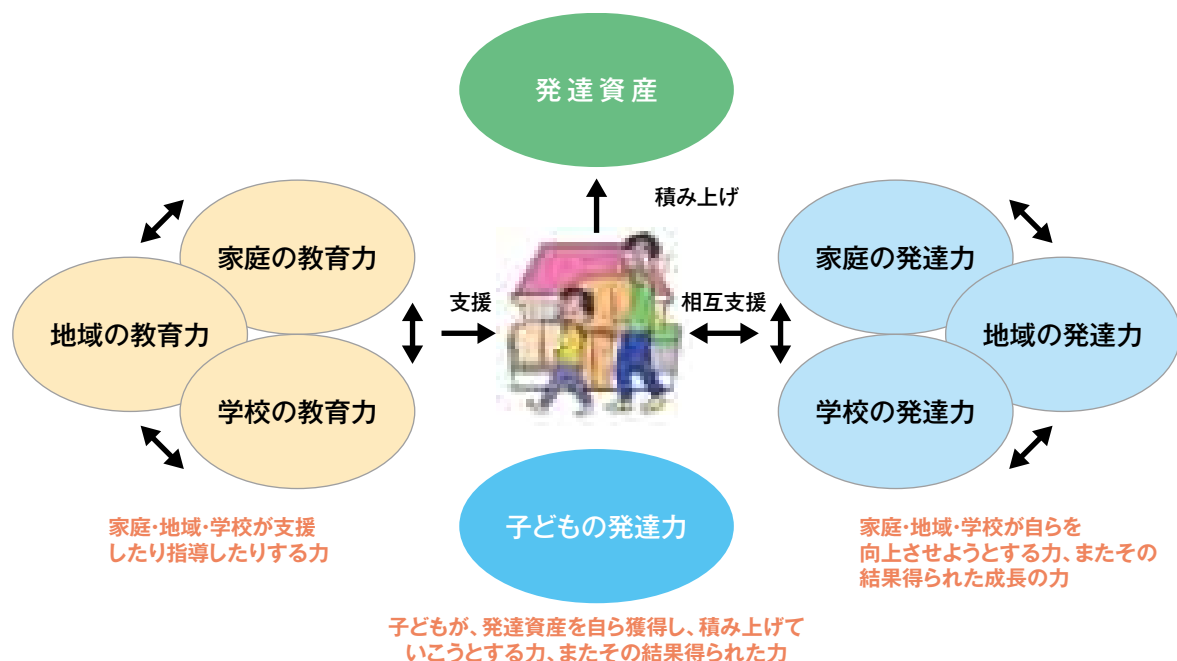
発達資産は子どもの社会化（社会の一員としての成長）にとって好ましい具体的、常識的な**経験及び資質**である。子どもの健全な成長に影響を及ぼすとともに、子どもが思いやりがあり、責任ある大人になるのを支援する。

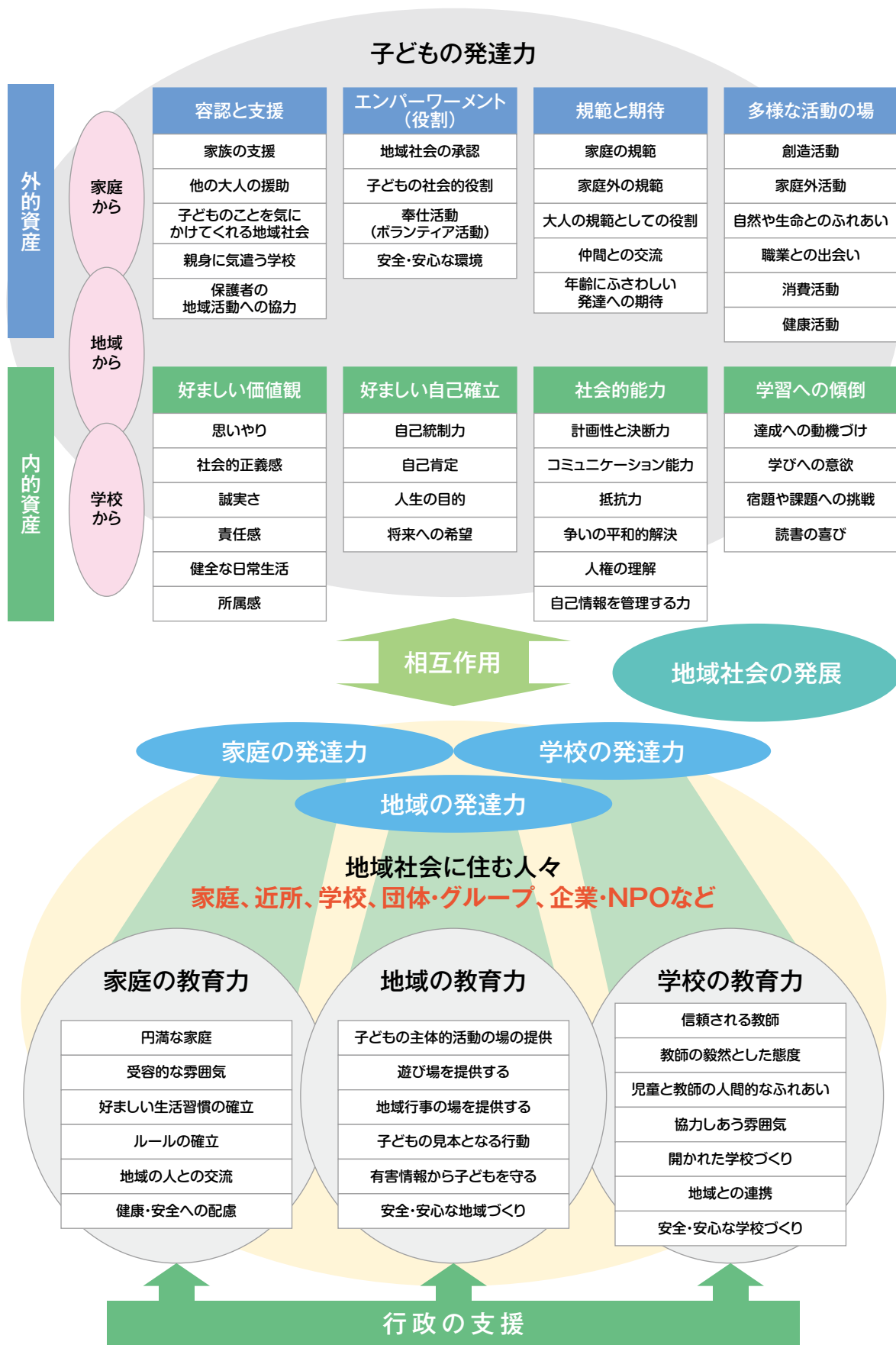
【外的資産】

外的資産は、子どもが**まわりの世界から受け取る好ましい経験**である。これは、子どもを支援し能力を養成すること、規範を決めそして期待をかけることなど子どもの生活の構えに関係している。外的資産は、家庭、学校、地域社会や団体等が子どもの健全な発達を促進する際に果たすことができる重要な役割を明確にしている。

【内的資産】

内的資産とは、子どもの好ましい**内部成長及び発達を反映する特性や行動**である。これらの資産は、好ましい価値観や自己確立、社会的能力及び学習に関係している。内的資産は、子どもが思慮深く好ましい選択を行うことを助けるとともに、子どもがその人生において自己の内的強さや自信に挑戦するような状況におかれた際の効果的な準備となる。





「子どもの成長過程における発達資産についての調査研究（平成17年度）」
 （国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）